

## 令和5年度第2回 潟上地域リハビリステーション運営推進会議録

1. 日時 令和6年3月19日(火) 14時~15時
2. 場所 トレイクかたがみ研修室1
3. 出席 潟上市役所健康長寿課 佐藤様  
民生委員 富浪 哲子様  
飯田川居宅介護支援センターわかば園 介護支援専門員 伊藤 美奈子様  
まごころプランステーション 櫻庭 睦様  
利用者ご家族代表 A様 (B様妻)  
利用者代表 B様  
利用者代表 C様  
トレイクかたがみ施設長 筒井 弥生  
潟上地域リハビリステーション管理者 渡部 見  
潟上地域リハビリステーション 大竹 絵美子  
(欠席：山根町内会長 阿部様)

### 4. 活動状況に関する報告

トレイクかたがみ (筒井)	今年度前半は大きな事故なく運営することができた。必要に応じて施設を利用し、健康づくりに役立ててほしい。みなさんから忌憚ないご意見をいただきたい。
潟上地域 リハビリステーション (大竹)	① 利用状況 延べ人数 555 名中、男性 212 名、女性 343 名。昭和・飯田川地区から半数、天王地区からは二田・東湖地区で割合が大きい。介護度は事業対象、要支援1・2を合わせて61%となり、自立度の高い利用者が多い。冬期間で入院した利用者も多かったため、昨年9月から登録数、利用者数ともに減っている。 ② 心身機能評価 定期評価で体組成計、10m歩行テスト、SPPB、握力を実施している。その他利用者に合わせて HDS-R、TMT、線分抹消試験など実施する。 ③ 事例紹介

	<p>I 様、70 歳代、脳梗塞の既往あり。利用半年で筋肉量が増え、歩行速度が速くなった。歩容も改善した。</p> <p>④ 今後のリハビリ</p> <p>施設内のリハビリだけでなく、外出リハビリや買い物リハビリなど活動の幅を広げたい。課題や目標をもって取り組んでいきたい。</p>
<p>潟上地域リハビリステーション (渡部)</p>	<p>利用者は介護度が軽い人が多い。利用歴が長い人ほど介護度が軽くなっている。開設当初より体力がある人が増えてきているため、より自立支援に向けたリハビリを提供したい。日中のトレイクの一般利用者は60歳以上の高齢者が多い。病気になっても病前と同じ環境でトレーニングができ、また機能回復し通所利用を卒業しトレイク一般利用者へと移行できるように循環できたら良い。</p>

#### 5. 意見交換、質疑応答

<p>潟上市健康長寿課 佐藤 様</p>	<p>体を動かすリハビリだけではモチベーションを維持するのは難しい。買い物リハビリは楽しみをもて、脳にも刺激になると思う。店の選定が難しいのではないか。</p> <p>→利用者の課題に合わせて段階付けをして店を選びたい。</p>
<p>民生委員 富浪 様</p>	<p>個別訓練から徐々に生活の中でリハビリを行えるようになるのが理想的だと思う。</p> <p>→自主訓練も提供して、通所利用中だけでなく家でも体を動かしてもらいたい。また ADL、IADL の様子を聞き取りリハビリに活かす。</p> <p>(大竹)</p> <p>→発症してから長い人、他のサービスを利用したことがある人などはセラピストから直接リハビリをやってもらいたいという願望が強い。自分でリハビリを行う意識をもち、最終的には通所卒業できることが理想だ。(渡部)</p>
<p>介護支援専門員 伊藤 様</p>	<p>買い物リハビリは行きたいと思う人が多いと思う。目標をもって取り組むことが大事だと思う。</p> <p>→店によって通路の広さや混雑具合、会計システムが違う。課題に合わせて店を選びたい。(渡部)</p>
<p>介護支援専門員 櫻庭 様</p>	<p>買い物リハビリは魅力的だ。利用者からは一日型のサービスではないことで好意的な声が上がっている。</p>

家族代表 A 様	スタッフの対応が行き届いている。利用当初はスタッフに手伝ってもらっていたが、現在は自分で運動メニューを決め実施できるようになった。その結果運動する時間が増えた。自宅でも人の手を借りずに生活することができる。
B 様	90歳になるが自宅で転倒したことがない。利用してから要介護2から1になった。
利用者代表 C 様	近所の方がトレイクを利用しており、昨年12月から利用している。変化がみられるため体組成計がおもしろい。筋肉量が増え、内臓脂肪が減った。